

瑞浪市化石博物館研究報告投稿規程(2019年12月改訂)

A. 一般的事項

1. 原稿は原則として化石・地質・博物館(学)に関するものとする。
2. 研究報告は、毎年3月中旬に出版する。なお、電子版は原稿受理後1か月をめぐりに順次当館のホームページ上で公開する。
3. 原稿は常時受け付ける。毎年3月中旬の出版号に論文の掲載を望む場合は、前年の10月末を締め切りとする。
4. 原稿の種類は、「原著・短報・その他」とする。
5. 用語は和文または欧文とする。
6. 研究報告のサイズは、横21cm、縦29.7cmのA4版である。原稿の長さ、図版などの枚数は原則として制限しない。

B. 投稿

1. 投稿は、原則として電子投稿とする。パーソナルコンピュータで再生可能なCDやDVDに書き出したものを送付しても良い。
2. 投稿時に原稿のページ数、図、表、図版の枚数、カラーページの有無を編集者に連絡すること。また、迅速に投稿者と編集者が連絡を取り合えるように投稿時には投稿者の連絡先(携帯電話番号、Eメールアドレス等)を記載すること。
3. なお、後述のフォーマット以外のファイルは受け付けない。
4. 投稿された原稿は、編集者の判断により、原則として1名のしかるべき査読者により査読される。その結果によっては、原稿の修正を求めることがある。なお、投稿前に原稿が適切な査読者に査読が行われていると編集者が判断した場合には、それを省略することもある。

連絡先 〒509-6132 瑞浪市明世町山野内1-47
瑞浪市化石博物館研究報告編集委員 宛
Tel. 0572-68-7710
Email: sportsbunka@city.mizunami.lg.jp

投稿先 bmfmuseum1974@gmail.com

C. 原稿

I. 原稿の構成

1. 表題、著者名、著者の所属する機関を順に記述する。なお、日本語原稿の場合は英語の表題、著者名、著者の所属する機関も併記すること。

2. 原著の場合は、続いて英語の要旨(100-800字)、英語のキーワード(3-6ワード)、本文、引用文献の順に記述する。短報とその他の原稿の場合は英語の要旨は不要であるが、英語要旨を加えても構わない。

II. 文章と文体

1. 文体は、ひらがなと漢字による口語体とし、現代仮名使いを用いて「である」調とすること。漢字は当用漢字を用いること。
2. 日本語文章のフォントは明朝体(MS P明朝が望ましい)を用いること。
3. 欧文文章の場合は、Times New Romanを用いること。学名のイタリック表記する部分はイタリック体を用いる。
4. 句読点は「，．」を用いること。
5. 謝辞を除き本文中の人名には敬称をつけない。
6. 特殊文字(ラテン文字など)、発音記号は直接入力する。

III. 本文

1. A4判用紙サイズに1行30字×30行とし、行の間隔、余白などを十分にとること。
2. 句読点、引用符、その他記号も全て1字とすること。
3. 本文原稿の下側欄外にページ番号を示すこと。
4. 本文原稿は、WindowsやMacintoshのMicrosoft Wordで作成すること。

IV. 引用文献

本文中に引用した全ての文献は、論文末に一まとめにし、著者名のアルファベット順に並べる。筆頭著者が同一の場合は年代順、共著者数順に並べる。掲載誌名は略記しない。引用ページの範囲符号は「-」(Times new romanの半角ダッシュ)を用いる。

例

- Bell, T. 1858. A monograph of the fossil malacostracous Crustacea of Great Britain. Part I, Crustacea of the London Clay. Palaeontological Society. London. 44 p., 11 pls.
- Felder, D. L., J. W. Martin, and J. W. Goy. 1985. Patterns in early postlarval development of decapods. In A. M. Wenner, ed., Larval Growth. Crustacean Issues. F. Schram (series ed.) Vol. 2. Balkema Press. Rotterdam. p. 163-225.
- Gould, A. A. 1861. Description of new shells collected by the North Pacific Exploring Expedition. Proceedings of the Boston Society of Natural History 8: 14-40.

糸魚川淳二. 1974. 瑞浪層群の地質. 瑞浪市化石博物館研究報告 1: 9–12.

糸魚川淳二・津田禾粒・山野井 徹. 1987. 熱帯環境. とくにマングローブ沼の調査(パラオ諸島). 地学雑誌 96(5): 59–60.

Sakai, T. 1965. The Crabs of Sagami Bay, collected by His Majesty the Emperor of Japan. Maruzen Co. Tokyo. p. 1–206, pls. 1–100.

Schweitzer, C. E., and R. M. Feldmann. 2010. A new family of Mesozoic Brachyura (Glaessneropsoidea) and reevaluation of *Distefania* Checchia-Rispoli, 1917 (Homolodromioidea: Goniodromitidae). Neues Jahrbuch für Geologie und Paläontologie 256(3): 363–380.

Schweitzer, C. E., R. M. Feldmann, and H. Karasawa. 2012. Part R, Revised, Volume 1, Chapter 8M: Systematic descriptions: Infraorder Brachyura, Section Dromiacea. Treatise Online 51: 1–43. Available online October 7, 2012.

森下 晶・糸魚川淳二. 1986. 図説古生態学. 朝倉書店. 東京. 175 p.

V. 図・表・図版

1. 図・表・図版は、縮小しても良いように、文字、記号線などの大きさ、調和を考慮して作成すること。
2. 本報告は A4 版であり、印刷面が横 17 cm, 縦 24 cm である。そのまま製版できるように **17×24 cm に調和させて作成**すること。図や表の折り込みはしない。
3. 図・図版は、全て個別に作成し、psd, jpg または tiff ファイルとして投稿する。その際、ファイル名と図・図版の番号を一致させること。Word や PDF にまとめて貼り付けて投稿しない。
4. 図は、読者がその情報を読み取れるように**高解像度 (300dpi もしくは横 1,500 ピクセル以上)**とする。
5. 表も、全て個別に作成し、Word または Excel ファイルとして投稿する。その際、ファイル名と表の番号を一致させること。
6. 図・表・図版中に記述する文字のサイズや種類は本文のものと調和させるのが望ましい。
7. 図・表・図版の説明は引用文献の後に続けて書く。和文原稿の場合、説明は日本語と英語の併記が望ましい。

D. 種の記載

1. 種の記載については、**国際動物命名規約, 国際植物命名規約に従うこと。**
2. 記載の形式については、本報告の慣例に従う。本報告を参考にする場合は、当研究報告の前号を参考にされたい。

シノニムの書き方

- a) シノニムが短い場合

1893 *Cancer japonicus* Ortmann, p. 427, pl. 17, fig. 5.

1975 *Cancer japonicus* Ortmann; Nations, p. 44.

- b) シノニムが長い場合

Crutonotus antiquus Ristori, 1889, p. 4.

Carcinoplax antiqua (Ristori); Glaessner, 1933, p. 17, pl.

4, fig. 3; Imaizumi, 1961, p. 164, pls. 12–17;

Karasawa, 1990, p. 23, pl. 7, figs. 1–8.

E. 校正

1. 初校正は著者が行う。二校以後は編集者が行う。
2. 校正の際に内容を大きく書き変えることはできない。

F. 著作権

当研究報告に掲載された論文の著作権は、瑞浪市化石博物館に帰属するものとする。画像などの二次使用の場合には、任意様式にて当館長宛に申請すること。但し、著者自身または所属研究機関による論文の公開を除く。

G. 別刷

著者に対して論文の PDF ファイルおよび本冊 1 冊を贈呈する。別刷を希望する場合には、当館指定の印刷業者に直接発注する。その場合の費用は著者負担である。

H. 掲載論文の紹介原稿について

日本語各掲載論文の簡単な紹介ページがある。著者は、200–500 字の論文の紹介文章を本文原稿とは別に提出すること。提出のない場合は、編集委員が作成し、著者が校正を行う。「です、ます」調で「、。」を使用すること。著者が執筆する場合は、研究者以外が読むことも考慮に入れること。